

2025 年度 第 2 回 学校関係者評価委員会 議事録

日時： 2026 年 1 月 28 日（水） 15:00～16:30

場所： 専門学校 YIC リハビリテーション大学校 会議室

出席者：外部委員（各 1 名）

- ・ A：専門学校 YIC リハビリテーション大学校 保護者
- ・ B：有職者 理学療法士
- ・ C：有職者 作業療法士
- ・ D：専門学校 YIC リハビリテーション大学校 理学療法学科卒業生
- ・ E：専門学校 YIC リハビリテーション大学校 作業療法学科卒業生

出席者：学内（8 名）

- ・ F：校長
- ・ G：副校長
- ・ H：事務長
- ・ I：校務課長
- ・ J：教務
- ・ K：作業療法学科長
- ・ L：理学療法学科長
- ・ M：議事録担当者

1. 校長あいさつ

多忙な中での出席へ謝辞を述べるとともに、本委員会の意義について言及。「多岐にわたる視点からの忌憚のない意見を頂戴し、それを今後の学校運営および、より質の高い教育環境の構築に具体的かつ実効的に反映させていきたい」との強い意向が示された。

2. 定足数の確認、委員長・副委員長の選出

I 委員より本日の出席状況について確認が行われ、委員全員が出席しているため、本委員会が有効に成立していることが報告された。

続いて、役員の選出が行われた。立候補者が不在であったため、前回同様に以下の体制で進行することが承認された。

- 委員長：D 委員（卒業生理学療法士）
- 副委員長：E 委員（卒業生作業療法士）

3. 議事

（1）2025 年度 自己点検評価途中経過の報告

J 委員より、事前に配布された「2025 年度 自己点検評価表」に基づき、評価基準（「適切」から「不適切」までの 4 段階評価）に照らし合わせた現状と改善点の詳細報告が行われた。特に、前回の委員会での指摘事項および 2024 年度の課題に対する改善進捗を中心に説明があった。

【主な報告内容】

1. 学校運営（項目 2）

- 2-4-5 理事会・評議員会の情報公開：評価を「2」から「4」へ改善

従来、議事録の公開運用が不明確であったため評価を低く設定していたが、所定の手続きを経ることで開示可能であることが確認できたため。

- 2-7-1 業務効率化：評価を「3」から「4」へ

学内情報システムの導入と継続的な整備により、教職員の業務効率化が進展している。

2. 教育活動（項目3）

- 3-2-3 シラバスの整備：評価を「2」から「3」へ

従来は未整備な部分があったが、独自の様式を作成し整備を進めている。現状は過渡期であるため「2」から「3」への修正に留めたが、完全整備による「4」の達成を目指して進行中である。

- 3-2-22 授業参観・相互評価：評価を「2」から「4」へ

教員間での授業相互参観について、日常的に実施しやすい環境づくりと報告の仕組みを導入した。これにより実施頻度が向上したため、大幅に評価を引き上げた。ただし、定期的なスケジューリングの定着には引き続き課題が残る。

3. 学習成果（項目4）

- 4-3-1 資格取得率：評価を「3」から「4」へ

国家試験合格率向上に向け、教職員一丸となった指導体制を構築しており、目標達成に向けたプロセスが適切であると判断した。

4. 学生支援（項目5）

- 5-5-1 退学率の低減：評価を「2」から「4」へ

前年度の退学率は7.6%であったが、今年度は現時点で目標値である「3%以下」を維持している。学生サポート体制の強化が功を奏していると判断した。

5. 教育環境（項目6）

- 6-1-4 図書室の整備：評価を「3」から「4」へ

前期中に蔵書整理等の環境整備を完了させ、後期より学生への貸出運用を正式に開始できたことから評価を改善した。

【質疑応答・意見交換】

- 1) A 委員：シラバス（項目3-2-3）の評価が「4」に達する具体的な時期はいつ頃を想定しているか。また、退学率が劇的に改善（3%以下）した具体的な要因は何か。またお願いとして、前回からの変更点が分かるよう、資料上に併記してほしい。

- 回答：

（シラバス）：J 委員

今年度内に各コマのシラバス整備を完了させる予定である。来年度前期中、遅くとも来年度末までには「4」の水準に達すると見込んでいる。遅れの背景には、法改正に伴う記載項目の修正対応を優先させた事情がある。

（退学率）：K 委員、L 委員

各学科共通の取り組みとして、以下の2点が挙げられる。

1. 早期発見・早期対応：

ゼミ活動を通じ、学生の悩みや意欲低下の兆候を早期に聞き出す体制を強化した。

2. 外部リソースの活用：

「学習支援対象者」を1年次前期から選定し、現役セラピストとして活躍する卒業生を招聘して補習指導を行うメンター制度を導入した。教員以外の「斜めの関係」による相談相手があったことが大きな変化点である。

※ただし、退学率に関しては年度末の進級判定により数字が変動する可能性がある旨、付言された。

2) D 委員：全体的に自己評価が高くなっており、学校側の努力が感じられる。情報システム化に関連し、昨今話題の AI 活用について、教育現場での今後の導入計画はあるか。

○ 回答：K 委員、F 委員

来年度より「AI リテラシー教育」の導入を計画している。学生が将来的に AI を利用することを前提とし、適切な付き合い方や倫理観を教育する方針である。また、教務面でも教員への iPad 支給など ICT 環境の整備を検討中である。AI への過度な依存は防ぎつつ、「情報の授業」の一環として技術活用を模索していく。AI は進化中であり、見極めながら教育へ取り入れていく。

3) B 委員：授業の「質」の保証について、授業見学や相互参観は実施されているとのことだが、教員の質（指導力）を測る客観的な指標などは存在するのか。

○ 回答：G 委員、L 委員、F 委員

定量的な指標としては「期末試験の平均点・標準偏差」の推移や、「学生による授業評価アンケート（5段階評価）」の結果を照らし合わせて分析している。教員の指導能力評価は非常に難しい課題であるが、経験の浅い教員の授業をベテラン教員が視察し、具体的な助言を行うなど、組織的な質向上に取り組む必要がある。教員の能力評価の指標に関しては様々な研究があるが非常に難しい所がある。

（2）2025 年度 学科報告

作業療法学科、理学療法学科の各学科長より、現時点での詳細な状況報告が行われた。

1. 作業療法学科（OT）報告（K 委員より）

○ 国家試験・就職状況：

- 国家試験は未実施のため、前年度実績を資料に記載。
- 現在の4年生（在籍16名）のうち、すでに12名が内定を獲得しており、現時点での内定率は75%である。残り4名についても活動中である。

○ 在籍・退学状況：

- 退学者は2名発生したが、学科単独での退学率は3.4%に留まっている。
- 今年度4月1日時点では58名だったが、2名退学し現在56名が在籍しており、定着率は概ね良好である。

2. 理学療法学科（PT）報告（L 委員より）

○ 国家試験・就職状況：

- 全員合格を必達目標として対策を強化している。
- 就職に関しては、臨床実習先から高い評価を受け、スムーズに内定に至るケースが多い。現在就職活動中の学生を含め、最終的に就職率100%を目指す。

○ 在籍・退学状況：

- 1年生において1名の退学者が発生した。その他、退学を検討している学生が数名存在するが、面談等を通じたサポートを継続し、全学目標である退学率3%以内に収めるよう努力している。

【質疑応答・意見交換】

1) C 委員：学生に対する求人数はどの程度あるのか。また、実習先へそのまま就職する割合はどの程度か。

○ 回答：L 委員

求人数は県外を含めると数千人規模に達しており、学生一人当たりの求人倍率は極めて高い「売り手市場」である。傾向として、今年は県内就職を希望する学生が多い。

実習先への就職に関しては、正確な統計数値ではないが、体感として約半数弱が実習先に就職している印象である。実習中の態度や能力が評価され、施設側から直接リクルートされるケースが多々見られる。

2) A 委員：3年次の実習と4年次の実習ではどちらが就職につながりやすいか。

○ 回答：L 委員、K 委員

PT 学科では就職したい施設がある場合、その施設へ3年次に実習へ行くよりは、4年次で行った方が期間も長いので就職につながりやすいと思われる。OT 学科でも最終的に就職したい分野に4年生で行ってもらうように調整している。

○ 回答：D 委員

受入施設側の視点として、実習生が優秀であれば「ぜひ就職してほしい」と考えるのが自然である。特に、期間が長く、実践的な能力が試される「4年生の総合臨床実習」での印象が就職に直結しやすい。

3) E 委員：OT 学科の退学率が高い。退学率の推移は毎年同じであるか、学科ごとの退学理由の傾向や、人気の就職分野について知りたい。

○ OT 学科回答：K 委員

OT 学科は母数が少ないため、退学率が多いように見えてしまうものもある。退学理由は「学力不振」と「モチベーション低下」が主因である。就職分野については、近年「精神科」や「小児・発達領域」への関心が高まっており、以前主流であった「急性期病院」への希望者はやや減少傾向にある。

○ PT 学科回答：L 委員

退学者は年々減っている印象。PT は依然として病院志望が多数を占めるが、実習先の影響を強く受ける。最近では病院以外（デイサービス等の介護分野）への関心を持つ学生も現れ始めている。

4) D 委員：今年の国家試験の合格率は100%に達しそうか

○ 学校回答：100%を目指し努力をしている。

(D 委員より) 国家試験全員合格を目指すプロセスの中で、学生の学力向上が顕著に見受けられる。特に2年次には拙劣だった文章構成力等が、4年次には論理的で完成度の高いものに成長しており、先生方の指導力の成果であると感じている。

(3) 2025 年度 重点項目への取り組み報告 (G 委員より)

今年度の重点課題として掲げた「定員充足（募集）」「国家試験対策」「教育力の向上」「国際交流」の4項目について、進捗状況の報告が行われた。

【主な報告内容】

1. 定員充足（学生募集活動）

○ 出願状況：

PT 学科 25 名、OT 学科 12 名の出願があった。定員には達していないものの、昨年度実績と比較すると微増傾向にある。

○ 主な活動：

- 高校訪問の強化。
- 本校職員の部活動（バスケットボール等）を通じた中高生への広報活動。
- 教職員を対象とした「オープンキャンパス研修」の実施による、来校者対応力の向上。

2. 国家試験対策

2 月 23 日の試験本番に向け、模擬試験の実施に加え、学習アプリやオンデマンド動画教材を積極的に活用している。学生個々の習熟度をデータ管理し、全員合格を目指す。

3. 教育力の向上

前述の通り、学習支援対象者への個別・集団指導に加え、卒業生との連携による学習支援システムを新たに構築し、運用を開始した。

4. 国際交流

- 7 月に韓国からの留学生を受け入れ、学内交流を実施した。
- 3 月には本校学生（主に PT 学科 3 年生）が韓国・釜山を訪問し、現地の学生や医療現場との交流を行うよう計画している

【質疑応答・意見交換】

- 1) A 委員：オープンキャンパスへの Web 予約が増加しているとの報告だが、+70 名とは Web 予約が増えたことなのか、予約自体が去年と比べ増えたということか。

○ 回答：I 委員、G 委員

Web からの予約が増えた。リターゲティング広告等の Web 施策により来校者数は増加したが、出願に至る割合（歩留まり）は PT で約 3 割、OT で約 2 割と依然として課題が残る。全国的に医療系専門学校の募集は苦戦しているが、オープンキャンパスの内容を刷新するなどの対策を講じている。データ分析の結果、高校 1・2 年生の早期段階で複数回来校した学生は出願に繋がりやすいことが判明したため、低学年層へのアプローチを強化していく。

- 2) D 委員：オープンキャンパスに参加する学生は何年生が多いか。専願の特典もあるのか。

○ 回答：I 委員、G 委員

3 年生が圧倒的に多い。1、2 年次に 2 回程度来てくれると出願につながりやすいこともあり、1、2 年生に来校してもらえるように力を入れている。指定校の特典や特待生制度等がある。

- 3) E 委員：学生が入学を決める最大の要因（決め手）は何か。

○ 回答：I 委員、L 委員

アンケート等では「学校の雰囲気良かった」「先輩・教員が優しかった」という情緒的な理由が多く挙げられる。カリキュラム等を他校と比較検討するよりも、直感や、親・先輩からの口コミ・推薦で決定する傾向が強まっている。

○ 回答：B 委員

高校生の視点に関する補足として、意外な要素だが「実習着（ユニフォーム）のデザイン」の影響力は大きい。最近は黒のスクラブなど、スタイリッシュなデザインが人気である。保護者は「教育の質」や「先生の指導力」を重視するが、学生本人は「見た目のかっこよさ」「憧れ」を入学動機にする傾向がある。

○ 回答：G 委員 I 委員

貴重な意見として承る。ユニフォームのデザイン変更等も検討材料としたい。また、卒業生が実際に働く現場での「あの学校は良い」という口コミが最大の広報であると再認識している。

3) D 委員：国際交流について、韓国の学生との言語の壁はどのように解消しているのか。

○ 回答：F 委員、G 委員、L 委員

基本言語は英語を使用しているが、翻訳アプリや生成 AI を積極的に活用している。韓国の学生は日本語でのプレゼンをしてくるなど、テクノロジーによって言葉の壁は著しく低くなっている。学生にとって、異文化交流と同時に最新技術の活用を体験する良い機会となっている。

4. 閉会

1) **閉会挨拶**：予定された全ての議事が終了したため、I 委員より、活発な議論と貴重な提言に対する謝辞が述べられ、閉会が宣言された。

2) **事務連絡**：今後のスケジュールについて以下の通り連絡が行われた。

- **次回開催予定**：6月24日（水）
- **議事録の送付**：本日の議事録については、2月中旬頃を目処に各委員へ送付する。

以上をもって、今年度第2回学校関係者評価委員会を終了した。